

日本国内での実践知を反映したハンズオン素材の集約

課題実施機関 鳴門教育大学 教員教育国際協力センター

課題代表者名 服部 勝憲

1. 事業の目的・方法

本事業の目的は、国際教育協力を携わる大学教員をはじめとする活動実施者によりハンズオン素材に対する評価・改善をおこない、その質的向上を図ることと、隊員からのニーズに応えるべく、ハンズオン素材の充実を図る。方法は、各大学等で実施されている教育協力事業において開発されているハンズオン素材を集約し、教育の専門家である活動実施者の視点から各素材に対する評価・改善をおこなう。そして、隊員が現地教員(カウンターパート)と情報を共有する視点から、集約したハンズオン素材を可能な範囲で多言語に翻訳する。

2. 今年度の活動・成果

(1)平成 19 年度に実施した事業「派遣現職教員の活動の幅を広げるハンズオン素材とその活動展開モデルの開発」で収集されたハンズオン素材と、本年度新たに収集・開発したハンズオン素材に対して、評価・改善をおこなう。これまでに相当数のハンズオン素材が集約されてはいるものの、隊員からの広範なニーズに応えられるだけの蓄積には至っていないことが課題となっている。例えば、隊員が派遣されている現地の実情・実態に応じて活用が可能なハンズオン素材であるか、また、そのような視点でハンズオン素材が集約されているか等である。そこで、平成 19 年度の上記事業で渡航調査をおこなった、タンザニアとバングラデシュにおけるハンズオン素材を活用した活動展開モデルと実践授業の実際を参考にして、ハンズオン素材に対する評価の視点を策定する。

(2)活動実施者により検討されたハンズオン素材に対する評価の視点を踏まえ、本年度新たに開発したハンズオン素材の改善をおこない、そのハンズオン素材を活用した図画・工作と美術に関する授業実践をパラオにて計画している。また、タンザニアで進行しているハンズオン素材を活用した授業実践の展開に関して、上記(1)で検討された評価・改善の視点をもとに意見交換をおこない、平成 19 年度の事業で渡航調査をおこなった当時と比較して進展した内容や課題について協議する。

3. 最終成果物に向けた進捗状況

(1)これまでに収集・改善ならびに新たに開発したハンズオン素材を活用した授業実践に向けて、当センターの事業ならびに当大学院の講義を機会として、下記の海外渡航調査(パラオ、タンザニア)を実施する。

①パラオへの渡航は 1 月中旬に 2 週間を予定しており、現地の小・中一貫校において、各学年を対象に授業を実施する。そして、パラオの JICA 現地事務所と現地隊員を交えての協議をおこなう予定である。

②タンザニアへの渡航は 2 月中旬を予定しており、現地の大学を中心に実践されている活動を紹介してもらい、活動展開モデルの確認とハンズオン素材に対する改善について意見交換をおこなう。

(2)海外渡航と並行して 2 月には、新たに収集したハンズオン素材を「国際協カイニシアティブ」ライブラリへ追加登録するとともに、既に登録済みのハンズオン素材および活動展開モデルに対しても見直しをおこなう。